

2022 Super FJ 日本一決定戦

協賛各社一覧：住友ゴム工業株式会社・東海電装株式会社・株式会社ファーストモルディング・株式会社佐藤製作所
・トヨタカローラ三重株式会社・株式会社ルーニーホールディングス・株式会社アイエスピー・株式会社ヨネタニ・自動車工房 MYST



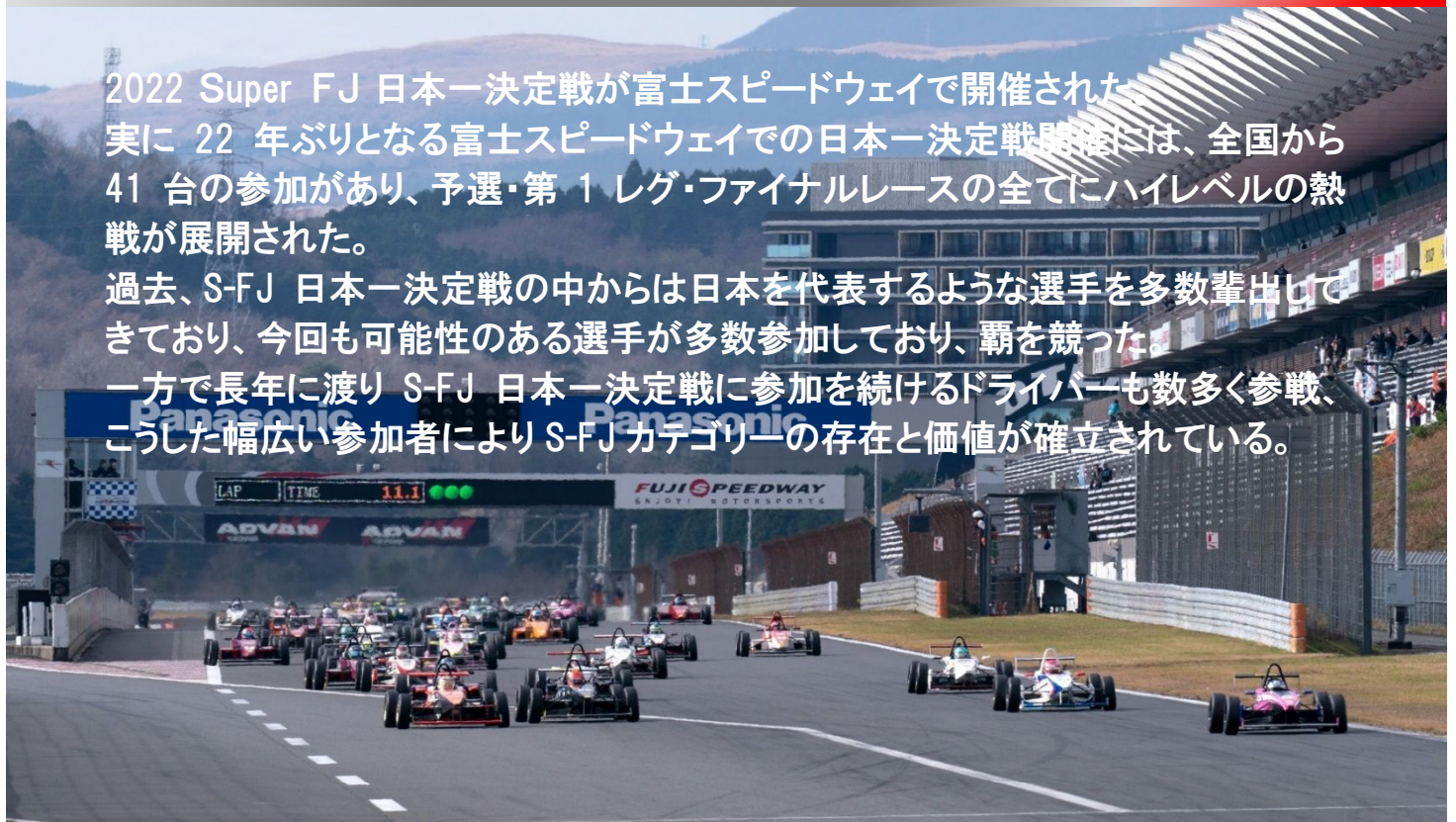
富士スピードウェイ

2022年 12月10～11日 天候:晴れ 参加41台



2022 Super FJ 日本一決定戦が富士スピードウェイで開催された。実に 22 年ぶりとなる富士スピードウェイでの日本一決定戦開催には、全国から 41 台の参加があり、予選・第 1 レグ・ファイナルレースの全てにハイレベルの熱戦が展開された。

過去、S-FJ 日本一決定戦の中からは日本を代表するような選手を多数輩出してきており、今回も可能性のある選手が多数参加しており、覇を競った。一方で長年に渡り S-FJ 日本一決定戦に参加を続けるドライバーも数多く参戦、こうした幅広い参加者により S-FJ カテゴリーの存在と価値が確立されている。



テキスト:はた☆なおゆき

FJ1600 の時代から数えると 25 回目となり、四半世紀もの歴史を重ねてきた「スーパーFJ 日本一決定戦」。近年は鈴鹿サーキットとモビリティリゾートもてぎで隔年開催されていたが、今年は 2000 年以來となる、富士スピードウェイが舞台となった。

今年は富士でのスーパーFJ は、筑波・富士シリーズとして2戦、ノンタイトル戦として1戦、合わせて3戦行われ、ジャパンチャレンジを3年連続で制している、岡本大地選手(FTK・レヴレーシングガレージ)が2勝、そして鈴鹿シリーズのチャンピオン、森山冬星選手(DIXCEL/ROYAL/MYST)が1勝を挙げている。岡本選手のジャパンチャレンジでの 6 戦4勝、森山選手の鈴鹿での2勝、そして一度も表彰台を逃さなかったという、それぞれ年間を通した成績とも合わせ、このふたりを本命として推す声は多い一方で、超える存在が現れることも、大いに期待したいところではある。

優勝賞金はダンロップ賞、NUTEC 賞と併せ 101 万円で、2 位も 50 万円、3 位も 25 万円で、10 位まで賞金が授与されるのは従来どおり。また、ジェントルマン賞やジャンプアップ賞に加え、ファイナルをスタートした車両のメンテナンスガレージに対し、1台あたり 2 万円を支給する JSS ファイナルスタート賞も昨年から設けられている。さらに今大会は東海電装スターティングマネー賞として、ファイナルをスタートしたドライバーにも 2 万円が支給されることになり、賞金総額は 533 万円になった。

予選、第1レグ、ファイナルの順で競われ、第1レグまでは A グループと B グループに分けられるのは例年どおりながら、タイヤは前輪が4本、後輪も4本の使用が可能となった。つまり2セット使えるようになって、ニュータイヤをどのタイミングで投入するかも、勝敗の鍵を握る可能性もある。



《公式予選》

今大会のエントリーは 41 台。昨年の 48 台よりは少ないものの、2020 年までは 30 台を超えるぐらいだったから、スーパーFJ の再認識は継続されていることの表れととらえてもいいはずだ。多くのドライバーが木曜日から練習を開始。金曜日の専有走行からはタイムも計測された。2 セッション行われ、いずれもトップは岡本選手で、レコードタイムの 1 分 50 秒 375 に、あと一歩と迫る 1 分 50 秒 777 を記録した。ちなみに 2013 年に記録されたレコードで、当時とはエンジン規程も若干異なるし、またタイヤも違って特性の違いから、「さらに温度が低くなる予選では、ちょっと更新は難しいと思います」というのが岡本選手の見立てだった。

ちなみに 1 分 50 秒台に乗せたのは岡本選手だけで、1回目は森山選手が 2 番手で 1 分 51 秒 417 をマークし、3 番手がオートポリスシリーズのチャンピオン、清水啓伸選手(Drago CORSE)で 1 分 51 秒 701。2回目の 2 番手は清水選手で、1 分 51 秒 016 にまでタイムアップ。そして 3 番手は筑波・富士シリーズとめてぎ・菅生シリーズの二冠王、田上蒼竜選手(A's カンパニーZAP ED)で 1 分 51 秒 512 をマーク。ここまで順当にチャンピオンたちが上位につけている一方で、岡本選手にアドバンテージありを感じさせた。

そして迎えた予選の A 組には、チャンピオンが 3 人登場。岡本選手と田上選手と清水選手だ。計測 1 周目からタイミングモニターのいちばん上に名を記したのは岡本選手だった。もちろん、まだウォームアップ中ではあるが、それでも他を 1 秒以上離し、ハイペースで行っているのは間違いない。次の周には 1 分 52 秒台にも入れ、そろそろ本格的にアタック開始かと思われた。だが、開始から 8 分ほど経過したところで、1 コーナーでストップした車両があり、赤旗が出されてしまう。

再開から 2 周後に、岡本選手は 1 分 51 秒 465 をマークしてトップに立ち、1 周クールダウンを挟んで 1 分 51 秒 161 にまで短縮を果たすと、チェッカーを待たずに走行を終了。その直後に清水選手が 1 分 51 秒 190 と肉薄するも 2 番手、田上選手が 1 分 51 秒 347 で 3 番手となった。なお、4 番手にはスーパーFJ 初レースとなる、島影柊悟選手(M2 MYST KK-SII)がつけるも、複数回の

走路外走行のペナルティで4グリッド降格となっていた。

B 組では、計測2周目に渡会太一選手(FTK レヴレーシングガレージ シグマ)がトップに浮上し、そのままタイムを縮め続けるが、計測4周目になっていよいよ1分51秒台に乗せ、逆転したのが森山選手だ。その後もシーソーゲームのように、ふたりでトップを入れ替え合うも、終盤の伸びには森山選手が優り、ラスト4周で1分51秒549を記すと、次の周には1分51秒143にまで短縮。さらにラストアタックでは、ただひとり1分51秒を切る、1分50秒987をマークする。

「新品タイヤ履いた時に最初のうちグリップ感がなくて、ガンガン温めていって、なんとか最後にタイム出せたんですが、内容的には50点ぐらいのアタックでした。岡本選手がB組で走っていたら、たぶん負けていたんで、そう考えると内容的には薄いかなと思います」と反省しきりの森山選手ながら、この予選後にはさらに反省すべきことが……。複数回の走路外走行で、3グリッド降格を余儀なくされたからだ。

繰り上がってトップに立ったのは稲葉摩人選手(ZAP SPEED 10V ED)。中盤に2番手に上がっていたが、やはりラストアタックで1分51秒329まで詰めていた。2番手は森山選手と鈴鹿シリーズで最後まで死闘を繰り広げていた、居附明利選手(SAccess Racing ES)が1分51秒619で獲得。3番手には小松響選手(OKABE Rn-sports KKSII)がつけ、1分51秒641をマーク。なお、渡会選手は5番手となっていたが、ベストラップが走路外走行によって抹消され、さらに複数の走路外走行によって6グリッド降格に。なんと最後尾スタートを余儀なくされていた。

予選A組トップ:岡本大地選手(FTK・レヴレーシングガレージ)

「路面温度がめっちゃ低いんで、どんな感じになるかなって、参考となるデータがないので、ちょっと難しかったですね。内圧にしても、ウォーミングにしても、どうしたらいいか分からなくて。とりあえずスリップストリームがタイムにすごく影響するとは思っていたので、前に着いていって、自分で距離開けてアタックできるように、ずっと間隔取っていった感じですね。たまたまベスト出た周がスリップいい感じでもらえて、もう1周行ったらタイヤは良かったかもしれないけど、スリップはこれ以上もらえないと思い、詰まっていたこともあってもう、やめました。清水くんは僕がやめた後、最後に出してきたんですね、速いなあ」

予選B組トップ:稲葉摩人選手(ZAP SPEED 10V ED)

「本当にスリップストリームの恩恵を受けて、繰り上がりですけどトップが獲れた感じなので、まだまだ単独のタイムで全体ベストつながらないことも多かったです。あとはレース中に自分がどれだけ成長できるか、なので正直、手応えは感じてはいないんですが、後ろから早い人が来るので、なんとか戦って抑えて、最後は勝てるように頑張ります」

《第1レグA組》

第1レグは6周もしくは15分の、超スプリントで競われた。好スタートを切った岡本選手ながら、1コーナーまで車速が伸びた清水選手に、アウトからあわや逆転の光景も。その後方では、田上選手が若干スタートに遅れ、八巻渉選手(中日本自動車短期大学KK-SII)の先行を許していた。1周目を終わると、早くも岡本選手と清水選手の一騎討ちの様相を呈したのに対し、2周目のヘアピンでは八巻選手のミスに乗じて、田上選手が3番手に順位を戻す。

トップ争いで明らかになったのは、速さのタイプが対照的だったことだ。岡本選手がインフィールドのコーナーで離しても、清水選手はストレートで差を詰めていた。そればかりか、あえて清水選手は前に出ない感も……。実際、最終ラップのストレートでの逆転を狙っていたという清水選手ではあったが、セクター3 で痛恨のミスが。コンマ 2 秒差で辛くも振り切り、まずは岡本選手がトップでチェッカーを受けた。

3位は田上選手で、4位は八巻選手。10 番手から4位まで上がってきたのは内田涼風選手(群馬トヨペット RiNoA ED)ながら、他者への衝突行為、コースアウトを強いたとして、40 秒加算のペナルティで 20 位に降格。繰り上がって4位には島影選手、そして5位には小川涼介選手(M2 KK-SII)がつけていた。

レグ1A 組1位:岡本大地選手(FTK・レヴレーシングガレージ)

「とりあえずスタートも良くて、ペースはずっと 2 秒とか 1 秒 9 で刻んでいて、安定はしていて落ちている感じはなかったんですが、ちょっとスリップ入られるときついな、という感じでした。コーナーで離しても、全部取り返されちゃうので、こっちがタイヤ頑張ってる感じがすごくありました。ストレートがあんなに速いのは、びっくりですね。たぶん清水選手は、あえて抜かずに着いてきたんでしょうけど、ファイナルはかなりきついと思います」



レグ1A 組2位:清水啓伸選手(Drago CORSE)

「ストレートはけっこう余裕を持って、真ん中あたりからパーシャルで抜かないようにしていました、後ろが来ていたので。ウイングも寝かせていたりするので、自分はサイドのストレートで、チェッカーラインで出られるかなって予定で行ったんですけど、セクター3 でミスっちゃって離れて、最後は追いつきこそしましたが、届かなかったですね。やっぱり岡本選手は速いところが違う。速いセクターが違うので、岡本選手の速いセクターで自分もペース落とさず走れば、全然勝機はあると思います」



レグ2A 組3位:田上蒼竜選手(A's カンパニーZAP ED)

「ずっと課題なんですけど、うまくいかないですね、スタートだけは。八巻選手を抜き返したのはヘアピンです。やっぱり車の特性の違いがすごく出ていて、100R がめちゃくちゃ速いんですけど、ストレートでは“超”置いていかれちゃって、スリップにも着けなくて。あれだとバトルになると戦えないので、そこは改善しないといけないかなと思います。着いていけるのは分かったので、5 番手とか 6 番手からでも全然ファイナルはやれると思っています」



《第1レグ B 組》

B 組のフロントローに並んだ稲葉選手と居附選手が、ともに無難なスタートを切ったのに対し、背後では森山選手が小松選手を早々にかわして 3 番手に浮上。そして、1周目から居附選手は、トップ浮上をダンロップコーナーで狙うも失敗、逆に GR スープラコーナーで森山選手の先行を許す。勢いに乗る森山選手は、2周目の 1 コーナーで稲葉選手をパスして、早々と本来いるべきだったポジションに戻る。

しかし、稲葉選手も居附選手も遅れず続き、逆転のチャンスを待つ。5周目の 1 コーナーでついにトップに立った稲葉選手ながら、すぐヘアピンで抜き返されたばかりか、居附選手の先行も許す。このトップ争いの激化によって、小松選手や6番スタートの藤原大暉選手(ACELINES レヴレーシング)も、稲葉選手に急接近。そんな状況において、最終ラップのダンロップコーナーで、稲葉選手に痛恨のオーバーランが。背後につけた小松選手の加速が鈍ったのを、藤原選手は逃さずとらえ、3 番手に浮上する。

しかし、ドラマはこれで終わりではなかった。最後のストレートで森山選手に迫った居附選手が、計測ライン直前で横に並んで、コンマ 023 秒差ながら前に出ることに成功。土壇場の大逆転を果たしていた。

藤原選手に続く5位は白崎綾選手(ZAP スタッフソース ED)で、6位は最後尾から追いつけてきた渡会選手が獲得。稲葉選手は9位に甘んじた。

レグ1B 組1位:居附明利選手(SAccess Racing ED)

「マシンはセットアップも決まっていて、序盤から行ける状態だったんですけど、6周しかないから少し焦っちゃって、変なところでタイヤカスも拾っちゃって、なかなか序盤はペース上げられませんでした。でも、最終的に1位になれたので良かったです。ラスト1周って分かっていたので、セクター3 で抜くとスリップでストレートでは抜き返されると思っていたので、そこは我慢してセクター3 を森山選手に合わせるようにして、最後スリップ効いて抜けました。マシンはかなりいい感じです」



レグ1B 組2位:森山冬星選手(DIXCEL/ROYAL/MYST)

「エンジンが、みんな速くて着いていけなくて、なんとか自分はセクター3 が得意なので、そこでカバーはできているんですけど、エンジン差がすご過ぎて、A 組の清水くんも見ていましたけど、スリップ圏外からでもスリップ圏内に来て、1コーナーでも刺せるレベルにいて、明日はどう戦おうかと。めっちゃ厳しいです。だけどバトルには自信があるので、そういうところを使って行って、岡本選手を捕まえて、自分が最後にトップ立てるように、頑張ります」



レグ1B 組3位:藤原大輝選手(ACELINE レヴレーシング)

「スーパーF」に乗るのは3年ぶりで、最後に出たのが苦い思い出で終わった日本一でした。ちょっとスッキリしました！とはいえ、ずっと新品タイヤを履かず、ダンロップも初めてなので、全然ワケわからない状態から、車のセッティングも富士には合っておらず、それを合わせ込んで。なので、予選はそれで沈んじゃったんですが、スタートしたらペース良かったので、最初ちょっとワチャワチャって、していたのがもったいなかったかな。それがなければ、もっと活けていたかもしれません。明日はシングルから行けるので、まだ勝機ありそうです」



《ファイナルレース》



明けて日曜日の 9 時 55 分から、ファイナルのスタート進行が開始。12 周もしくは 30 分の戦いとされた。このレースウィークは常に天気恵まれ、青空が最高の背景となっていた。

1 台がグリッドに着く際、ドライブシャフトの破損でピットに戻され、結局スタートできなかったものの、40 台がスターティングマネー賞を授与されることとなった。

さて、注目された2セット目のタイヤだが、全車ファイナルで投入した。ただし、まったくの新品を使う者と、金曜日の練習で一皮剥いたものを使う者が二分された。上位陣で一皮剥いたタイヤを使うのは、ポールポジションからスタートする岡本選手と、その脇に並んだ居附選手、そして森山選手と藤原選手ら。まったくの新品は清水選手と田上選手が選んでいた。

スタートは岡本選手が完璧に決めて、まずは 1 コーナーへのホールショットに成功。その後方では 4 番手から森山選手も負けず劣らず好スタートを決め、まずは清水選手をかわした後、1 コーナーで居附選手に並び、2 コーナーで前に。居附選手はダンロップコーナーで田上選手にかわされていた。

1 周目を終えた時点でトップは岡本選手で、1 秒 4 差で森山選手が続き、3 番手は田上選手、そして

ストレートで居附選手を抜いていた清水選手という順。タイヤを一皮剥いていただけでなく、あえてマシンをピットガレージに留めず、しっかり外に出してタイヤを陽に当てて、準備を完璧に整えていたことも功を奏し、そのまま逃げるかと思われた岡本選手だったが、2周目を終えても森山選手との差はほとんど変わらず、むしろストレートで今度は田上選手を抜いた清水選手が近づいてくる。



4周目に入ると、岡本選手と森山選手、清水選手、田上選手の間隔が、それぞれコンマ差に。3周目に1分51秒613、4周目に1分51秒294と清水選手がファステストラップを連続して更新して、明らかにまわりのペースを上回る。フレッシュタイヤの効果が出てきたか？ この中で最初に仕掛けたのは森山選手で、

6周目の1コーナーで岡本選手に迫ったが、逆転ならず。逆に100Rで清水選手が前に出る。

次に清水選手が襲い掛かったのは、もちろん岡本選手だ。7周目の1コーナーで待望のトップに躍り出るも、ここはダンロップコーナーで岡本選手が再逆転。8周目にも1コーナーで前に出た清水選手ながら、9周目のヘアピンで岡本選手は抜き返す。そんなふたりの攻防を、しばらく静観していた森山選手が10周目の1コーナーで勝負に出て、ファイナル初のトップに立ったのだが。岡本選手はその後、清水選手にも抜かれて3番手に後退。

それでも岡本選手は最終ラップのコカコーラコーナーで清水選手を抜き返し、ダンロップコーナーを最後の勝負どころと決めて、森山選手にも迫っていったが、その直後に接触が……。その脇を清水選手と居附選手がすり抜けていく。岡本選手、6回目の日本一決定戦、またしても勝てず……。

すぐに復帰はあったが、ゴール前は田上選手、藤原選手とスリーワイドになるも、100分の1秒だけ前に出て岡本選手は3位となり、2年連続で表彰台に立つことはできた。そして田上選手、藤原選手の順でフィニッシュ。6位は12番手から、またしても順位を上げてきた渡会選手。以下、八巻選手、稲葉選手、白崎選手の順でゴールし、森山選手が誰より悔しい思いで10位となった。

チェッカーを受けた清水選手は歓喜の涙を流し、マシンを降りて父親やチーム代表の道上龍氏の喜ぶ様子を見て、さらに感極まっていた。25代目の日本ードライバーが、これからどうステップアップしていくのか大いに楽しみである。



なお、2023年の日本一決定戦は、モビリティリゾートもてぎでの開催が予定されているが、6月には富士でのイベントも設けられることになりそうだ。

ジャパンスカラシップシステムが設けるジャンプアップ賞は、39番手から17位へと順位を上げた内田選手が獲得。そしてジェントルマン賞は今大会も吉田宣弘選手(EXREME☆ミスト☆ガレージヨシダ)が獲得し、2位は夕田大助選手(LAPS)、3位は宮本健一選手(KMTS-RT ミスト KK-SII)。またJSS特別賞は、ジャパンチャレンジを通じ、全国に積極的に遠征する傍ら、若手の育成に尽力した上吹越哲也選手(FTK・レヴレーシングガレージ)に授与された。

ファイナル優勝:清水啓伸選手(Drago CORSE)

「泣きました、いやもう、最終ラップって集中して気づかなくて、最後の1周が。チェッカー受けたら、自然と涙が出ましたね。予想以上に、戦略的にストレートで抜いて、中の区間で頑張っただけで、自分はストレートが速いので、なんとかできるかなって戦略だったんですが、予想以上にみんな、中の区間が速かったんで、ストレートもスリッパ着いたら、全然離れなくて、そこは自分が予想していたのはちょっと違っていました。最終ラップって分かっていたら、もっとガツガツ行っていたと思うので、そうしたら自分が逆の立場になっていたかもしれませんね。気づいていなくて、ラッキーだったのかなとは、ちょっと思いますね。来年は必ずステップアップします！」



ファイナル 2位:居附明利選手(SAccess Racing ES)

「トップ争いに絡みかけたんですが、フロントの接地感が昨日よりなく、タイヤの頭裏に時間がかかってしまって、僕のラップタイムが上がらなかったんで、我慢のレースになってしまいました。本来なら4位だったので、あんまり嬉しくないですけど、アクシデントもレースのうちなので、今はこの2位を喜びたいと思います。来年はステップアップ目指して、これからも頑張ります」

ファイナル 3位:岡本大地選手(FTK・レヴレーシングガレージ)

「スタートはまた良くて、1周目でかなり離して圏外へ。そのままひとり旅で行けたら良かったんですが、やっぱり微妙に逃げきれなかったのがダメでしたね。あそこでもう1秒前に出ていたら、ずっとひとり旅だったと思うんです。それ以上の反省点は接触で、それまで冬星選手、清水選手も来ていたので、団子のレースになると思ったので、中盤以降は頭脳戦のレースに切り替えて、ずっとタイヤもケアして、距離感も気にしながら、何周目に自分が何位にいればいいかっていうのを、ずっと考えてやってきたんですが……。お互いの意地がぶつかり合ったのかなという感じはしましたが、当たったのは抜きに行った僕の責任なので、この後ちゃんと謝りに行こうと思います」

ファイナル 4位:田上蒼竜選手(A'sカンパニーZAP ED)

「ストレートのペースが足りなかったんで、ダウンフォース削っていったんですけど、昨日アドバンテージがあった100Rが遅くなっちゃって、近づけるところが逆になくなっちゃって。ギャンブルが裏目に出て、ペースがなかったですね。もう他力本願で、なんとか最後、ワンチャンスあればな、という

感じでしたが、ちょっと足りなかったです、悔しいですね。また、来年もサーキットには絶対いると思いますので、またよろしくお願いします」

ファイナル 5 位:藤原大暉選手(ACELINES レヴレーシング)

「後ろの八巻選手と1周2周、バトルしていて、その間に前が離れちゃって、やっと前に出たと思ったら、けっこう差が開いていて。なかなかスリップが効く感じでもなかったのも、でも必死にとにかく、何か自分のためになればなあと思って、毎周自己ベスト出しながら走っていたら、前がバトルし始めて、ちょっとずつ追いついてきて。でも、1周足りなかったですね(笑)。3年前の思いは貼らせたんですが、逆にモヤモヤしてきて。だけど面白かったです。また機会があれば、リベンジしたいですね」

ファイナル 6 位:渡会太一選手(FTK レヴレーシングガレージ シグマ)

「いや～、悔しいですね、スタートをミスして 3、4 台に抜かれたので、それがなければ、前の集団にも入れたし、すごくもったいないレースウィークでしたね。絶対、あの位置でレースできていたので、ペース的にも。来年はなんとか FIA-F4 に出られるよう、準備はしていきます」

ジェントルマンクラス優勝:吉田宣弘選手(EXREME☆ミスト☆ガレージヨシダ)

「結果オーライというか、楽しくレースさせてもらってのも、良かったです。さすがにあんな後ろからスタートしたことないから、いい経験させてもらいました」

13 時からクリスタルルームにて「スーパーFJ 日本一決定戦の正表彰式」が開催され、同時に地方選手権のチャンピオンの表彰、ジャパンチャレンジの上位 4 名も表彰された。





Super FJ 公式予選 A組

2022 / 12 / 10 10:50



正式結果表

Weather : Fine

Fuji Speedway(4,563m)

Track : Dry

Pos	No	Class	C.P.	Name	Car	Type	Best Time	Lap	Gap	Ave. km/h
1	8			岡本 大地	FTK・レヴレーシングカレージ		1'51.161	10		147.775
2	34			清水 啓伸	DragoCORSE		1'51.190	10	0.029	147.736
3	13			田上 蒼竜	A'sカンパニー ZAP ED	RD10V	1'51.347	10	0.186	147.528
*1	4	20		島影 柊磨	M2 KK-S II		1'51.832	10	0.671	146.888
5	88			八巻 渉	中日本自動車短期大学KK-S II	KK-S II	1'51.935	10	0.774	146.753
6	19			松田 大輝	K-TACK MYST KK-S II	MYST KK-S II	1'52.190	10	1.029	146.419
7	12			小川 涼介	M2 KK-S II	KK-S II	1'52.288	10	1.127	146.292
8	61			高木 悠帆	MYST KK-S II		1'52.653	10	1.492	145.818
9	5			元山 泰成	Ecotech Racing	KKS II	1'52.713	10	1.552	145.740
10	81			内田 涼風	群馬トヨペットRiNoA ED		1'52.785	10	1.624	145.647
11	55			板倉 慎哉	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II		1'52.822	10	1.661	145.599
12	78			村田 将輝	湘工冷熱ZAPSPEED10V	RD10V	1'52.948	10	1.787	145.437
13	36			大川 烈弥	アルビB-AutoダイテルED	RD10V	1'53.232	10	2.071	145.072
14	17			齊藤 慈岳	FER WILDLIFE KK-S2	KK-S2	1'53.459	10	2.298	144.782
*2	25	G	1	宮本 健一	KMTS-RT ミスト KK-S II	ミスト KK-S II	1'53.646	10	2.485	144.544
16	37			磐井 隼斗	アルビ富士吟景 GIA ED	KKS	1'53.826	10	2.665	144.315
17	0	G	2	夕田 大助	LAPS	KKS2	1'54.169	9	3.008	143.881
18	72			下村 剛司	Sウィズ'ELEV'rKKS2	KKS2	1'54.252	10	3.091	143.777
***** 以上予選通過 (2'24.602 - 130%) *****										
*3	97			池田 拓馬	テイクファースト&アロイト	RD10V	2'48.247	2	57.086	97.635
*3	87			永原 蒼翔	ピットワークながはらMYST	KKS II	-	3		

赤旗提示時刻(8:42~8:47)

* CarNo.87 - 一般競技規則第5章第17条3.(ランオフエリア走行)により、当該周回タイムは採択されない。

*1 CarNo.20は、一般競技規則第5章第17条3.(走路の安全規定、走路外走行複数回)違反により、予選結果より4グリッド降格のペナルティを課す。

*2 CarNo.25は、一般競技規則第9章第40条2.(ピットレーンの速度規制)違反により、予選結果より1グリッド降格のペナルティを課す。

*3 CarNo.97, 87は、一般競技規則第9章第40条2.(ピットレーンの速度規制)違反により、予選結果より2グリッド降格のペナルティを課す。

Super FJ 公式予選 B組

2022 / 12 / 10 11:55



正式結果表

Weather : Fine

Fuji Speedway(4,563m)

Track : Dry

Pos	No	Class	C.P.	Name	Car	Type	Best Time	Lap	Gap	Ave. km/h
*2	1	56		森山 冬星	DIXCEL/ROYAL/MYST		1'50.987	11		148.007
2	14			稲葉 摩人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	1'51.329	11	0.342	147.552
3	39			居附 明利	SAccessRacing ES	KKS-2	1'51.619	11	0.632	147.168
4	15			小松 響	OKABE Rn-sports KKS2		1'51.641	11	0.654	147.139
5	26			白崎 稜	ZAPスタッフリソースED	RD10V	1'51.981	11	0.994	146.693
6	6			藤原 大輝	ACELINES レヴレーシング		1'52.032	11	1.045	146.626
7	53			安田 航	ファーストカレージ&Sウィズ	KKS-II	1'52.060	11	1.073	146.589
8	22			内藤 大輝	RCIT RaiseUP MT	KKS-2	1'52.244	11	1.257	146.349
9	57	G	1	吉田 宣弘	EXTREME☆ミスト☆GY	KKS-II	1'52.314	11	1.327	146.258
10	23			宇高 希	TAKE FIRST		1'52.361	11	1.374	146.197
11	66			戸谷 友規	Deep-R・10V・ED		1'52.441	11	1.454	146.093
12	52			椎橋 祐介	FGウィズ☆NMSP KKS II		1'52.867	11	1.880	145.541
*3	13	79		三瓶 旭	中日本自動車短期大学KK-S II	KK-S II	1'53.063	11	2.076	145.289
*1	14	7		渡会 太一	FTKレヴレーシングカレージ シグマ		1'53.444	10	2.457	144.801
15	33			入江 裕樹	スラッシュ☆タツレーシング	KKS2	1'53.739	11	2.752	144.425
16	21	G	2	太田 浩	ミスト・セキグチ・制動屋	KK-S2	1'53.748	11	2.761	144.414
*4	17	86		鈴木 翔也	CF亜衣☆ KK-S II		1'54.064	11	3.077	144.014
18	9	G	3	上吹越 哲也	FTK・レヴレーシングカレージ	KKS2	1'54.177	11	3.190	143.871
19	89	G	4	高橋 裕和	タイムメンテナンス/制動屋/イワモトR	MIST KK-S II	1'55.159	10	4.172	142.645
20	11			坂野 貴毅	Rn-sports森井板金工業KKS2	KKS-2	1'56.390	3	5.403	141.136
21	16	G	5	大貫 直実	グレート1スズバンF109	F109	1'57.129	10	6.142	140.245
***** 以上予選通過 (2'24.705 - 130%) *****										

* CarNo.7,23,33,79,86 - 一般競技規則第5章第17条3.(ランオフエリア走行)により、当該周回タイムは採択されない。

*1 CarNo.7は、一般競技規則第5章第17条3.(走路の安全規定、走路外走行複数回)違反により、予選結果より6グリッド降格のペナルティを課す。

*2 CarNo.56は、一般競技規則第5章第17条3.(走路の安全規定、走路外走行複数回)違反により、予選結果より3グリッド降格のペナルティを課す。

*3 CarNo.79は、一般競技規則第5章第17条3.(走路の安全規定、走路外走行複数回)違反により、予選結果より4グリッド降格のペナルティを課す。

*4 CarNo.86は、一般競技規則第5章第17条2.(復帰の仕方)違反により、訓戒とする。

Super FJ 第1レグ A組

2022/12/10 15:40



正式結果表

Weather :Fine

Fuji Speedway(4,563m)

Track :Dry

Pos	No	Class	C.P.	Name	Car	Type	Lap	Total Time	Ave. km/h	Gap	Best Time	Lap	
1	8			岡本 大地	FTK・レヴレーシングカレッジ		6	11'14.026	144.603		1'51.983	4	
2	34			清水 啓伸	DragoCORSE		6	11'14.269	144.551	0.243	1'51.850	4	
3	13			田上 蒼竜	A'sカンパニー ZAP ED	RD10V	6	11'14.741	144.450	0.715	1'51.554	6	
4	88			八巻 渉	中日本自動車短期大学KK-S II	KK-S II	6	11'15.401	144.309	1.375	1'51.483	6	
5	20			島影 柊磨	M2 KK-S II		6	11'28.144	141.637	14.118	12.743	1'52.700	5
6	12			小川 涼介	M2 KK-S II	KK-S II	6	11'28.164	141.633	14.138	0.020	1'52.907	5
7	55			板倉 慎哉	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II		6	11'28.289	141.607	14.263	0.125	1'52.977	5
8	19			松田 大輝	K-TACK MYST KK-S II	MYST KK-S II	6	11'28.459	141.572	14.433	0.170	1'53.582	5
9	36			大川 烈弥	アルビ・B-AutoダイテルED	RD10V	6	11'29.406	141.377	15.380	0.947	1'53.457	4
10	5			元山 泰成	Ecotech Racing	KKS II	6	11'30.009	141.254	15.983	0.603	1'53.119	4
11	61			高木 悠帆	MYST KK-S II		6	11'30.509	141.152	16.483	0.500	1'54.001	3
12	78			村田 将輝	湘工冷熱ZAPSPEED10V	RD10V	6	11'31.010	141.049	16.984	0.501	1'53.782	5
13	25	G	1	宮本 健一	KMTS-RT ミスト KK-S II	ミスト KK-S II	6	11'31.389	140.972	17.363	0.379	1'53.950	5
14	0	G	2	夕田 大助	LAPS	KKS2	6	11'36.184	140.001	22.158	4.795	1'54.318	4
15	37			鷺上 隼斗	アルビ・富士吟景 GIA ED	KKS	6	11'40.174	139.203	26.148	3.990	1'54.250	5
16	97			池田 拓馬	テイクファースト&アモイト	RD10V	6	11'40.293	139.179	26.267	0.119	1'54.066	5
17	87			永原 蒼翔	ヒットワークながはらMYST	KKS II	6	11'42.653	138.712	28.627	2.360	1'54.699	6
18	72			下村 剛司	Sウィンス'ELEV'rKKS2	KKS2	6	11'43.624	138.521	29.598	0.971	1'54.781	6
19	17			齊藤 慈岳	FER WILDLIFE KK-S2	KK-S2	6	11'43.659	138.514	29.633	0.035	1'54.840	6
*1 20	81			内田 涼風	群馬トヨタRiNoA ED		6	12'06.719	(11'26.719+40秒)	52.693	23.060	1'53.303	5

レース終了後に黒白旗通知(14:24 CarNo.5、走路外走行 複数回)

*1 CarNo.81は、一般競技規則第5章第16条5.(1)②(他車への衝突行為、コースアウト)違反により、競技結果に対して40秒加算のペナルティを課す。

Super FJ 第1レグ B組

2022/12/10 15:30



正式結果表

Weather :Fine

Fuji Speedway(4,563m)

Track :Dry

Pos	No	Class	C.P.	Name	Car	Type	Lap	Total Time	Ave. km/h	Gap	Best Time	Lap	
1	39			居附 明利	SAccessRacing ES	KKS-2	6	11'17.511	143.860		1'51.666	4	
2	56			森山 冬星	DIXCEL/ROYAL/MYST		6	11'17.534	143.855	0.023	0.023	1'52.237	6
3	6			藤原 大暉	ACELINES レヴレーシング		6	11'18.962	143.552	1.451	1.428	1'52.147	6
4	15			小松 響	OKABE Rn-sports KKS2		6	11'19.056	143.532	1.545	0.094	1'51.894	4
5	26			白崎 稜	ZAPスタッフリソースED	RD10V	6	11'19.491	143.440	1.980	0.435	1'52.270	6
6	7			渡会 太一	FTKレヴレーシングカレッジ シグマ		6	11'20.574	143.212	3.063	1.083	1'51.771	4
7	53			安田 航	ファーストカレッジ&Sウィンス	KKS-II	6	11'20.857	143.153	3.346	0.283	1'52.295	5
8	22			内藤 大輝	RCIT RaiseUP MT	KKS-2	6	11'21.238	143.072	3.727	0.381	1'52.402	6
9	14			稲葉 摩人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	6	11'21.593	142.998	4.082	0.355	1'52.041	3
10	66			戸谷 友規	Deep-R・10V・ED		6	11'23.988	142.497	6.477	2.395	1'53.012	6
11	23			宇高 希	TAKE FIRST		6	11'24.063	142.482	6.552	0.075	1'52.638	4
12	21	G	1	太田 浩	ミスト・セキグチ・制動屋	KK-S2	6	11'29.444	141.370	11.933	5.381	1'53.645	3
13	33			入江 裕樹	スラッシュ☆タツミレーシング	KKS2	6	11'30.476	141.158	12.965	1.032	1'53.627	4
14	52			椎橋 祐介	FGウィンス'NMSP KKS II		6	11'30.595	141.134	13.084	0.119	1'53.581	5
15	9	G	2	上吹越 哲也	FTK・レヴレーシングカレッジ	KKS2	6	11'32.414	140.763	14.903	1.819	1'53.526	4
16	89	G	3	高橋 裕和	タカメンテナンス/制動屋/イワモトR	MIST KK-S II	6	11'42.822	138.679	25.311	10.408	1'55.011	6
17	79			三瓶 旭	中日本自動車短期大学KK-S II	KK-S II	6	11'45.210	138.209	27.699	2.388	1'53.418	6
18	16	G	4	大貫 直実	グレート1スズ・ハンF109	F109	6	11'53.555	136.593	36.044	8.345	1'57.301	3
19	86			鈴木 翔也	CF垂衣☆ KK-S II		6	11'53.587	136.587	36.076	0.032	1'57.449	2
*1 20	57	G	5	吉田 宣弘	EXTREME☆ミスト☆GY	KKS-II	6	12'02.082	(11'22.082+40秒)	44.571	8.495	1'52.164	5
	11			坂野 貴毅	Rn-sports森井板金工業KKS2	KKS-2		未出走					

黒白旗提示(13:33 CarNo.39 走路外走行複数回)

レース終了後に黒白旗通知(13:35 CarNo.39、走路外走行 複数回)

*1 CarNo.57は、一般競技規則第5章第16条5.(1)②(他車のコースアウトを強いるもの)違反により、競技結果に対して40秒加算のペナルティを課す。

Super FJ FINAL RACE

2022/12/11 13:20



正式結果表

Weather: Fine

Track: Dry

Fuji Speedway(4,563m)

Pos	No	Class	C.P.	Name	Car	Type	Lap	Total Time	Ave. km/h	Gap	Best Time	Lap
1	34			清水 啓伸	DragoCORSE		12	22'27.331	145.493		1'51.244	5
2	39			居附 明利	SAccessRacing ES	KKS-2	12	22'28.060	145.414	0.729	1'51.590	7
3	8			岡本 大地	FTK・レシング・カレッジ		12	22'29.738	145.234	2.407	1'51.680	11
4	13			田上 蒼電	A'sカンパニー ZAP ED	RD10V	12	22'29.748	145.232	2.417	1'51.788	10
5	6			藤原 大暉	ACELINES レシング		12	22'29.771	145.230	2.440	1'51.361	11
6	7			渡会 太一	FTK・レシング・カレッジ シグマ		12	22'32.981	144.885	5.650	1'51.401	8
7	88			八巻 渉	中日本自動車短期大学KK-S II	KK-S II	12	22'33.676	144.811	6.345	1'51.915	11
8	14			稲葉 摩人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	12	22'34.217	144.753	6.886	1'51.549	5
9	26			白崎 稜	ZAPスタッフリソースED	RD10V	12	22'38.831	144.262	11.500	1'52.296	8
10	56			森山 冬星	DIXCEL/ROYAL/MYST		12	22'40.000	144.138	12.669	1'51.447	5
11	53			安田 航	ファースト・レーシング・S・インス	KKS-II	12	22'43.828	143.733	16.497	1'52.287	10
12	22			内藤 大輝	RCIT RaiseUP MT	KKS-2	12	22'44.463	143.666	17.132	1'52.600	7
13	19			松田 大輝	K-TACK MYST KK-SII	MYST KK-S II	12	22'46.977	143.402	19.646	1'52.595	4
14	61			高木 悠帆	MYST KK-S II		12	22'47.971	143.298	20.640	1'52.509	11
15	55			板倉 慎哉	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II		12	22'48.165	143.277	20.834	1'52.788	9
16	23			宇高 希	TAKE FIRST		12	22'51.690	142.909	24.359	1'52.394	6
17	81			内田 涼風	群馬トヨタRiNoA ED		12	22'52.105	142.866	24.774	1'52.172	9
18	57	G	1	吉田 宜弘	EXTREME☆ミスター☆GY	KKS-II	12	22'53.163	142.756	25.832	1'52.158	9
19	5			元山 泰成	Ecotech Racing	KKS II	12	22'53.730	142.697	26.399	1'52.836	6
20	36			大川 烈弥	フルタイム・オート・イタルED	RD10V	12	22'53.807	142.689	26.476	1'52.580	12
21	79			三瓶 旭	中日本自動車短期大学KK-S II	KK-S II	12	22'59.080	142.143	31.749	1'53.050	11
22	78			村田 将輝	湘工・冷熱ZAPSPEED10V	RD10V	12	23'02.240	141.818	34.909	1'53.263	11
23	52			椎橋 祐介	FGインス・NMSP KKS II		12	23'05.544	141.480	38.213	1'53.496	6
24	66			戸谷 友規	Deep-R・10V・ED		12	23'06.312	141.402	38.981	1'52.980	12
25	87			永原 蒼翔	ピットワークながはらMYST	KKS II	12	23'08.008	141.229	40.677	1'53.647	12
26	72			下村 剛司	S・インス・ELEV・rKKS2	KKS2	12	23'08.263	141.203	40.932	1'53.095	5
27	11			坂野 貴毅	Rn-sports森井板金工業KKS2	KKS-2	12	23'08.984	141.130	41.653	1'53.157	5
28	97			池田 拓馬	テイクファースト&7モロト	RD10V	12	23'11.408	140.884	44.077	1'53.545	11
29	0	G	2	夕田 大助	LAPS	KKS2	12	23'11.860	140.838	44.529	1'54.084	9
30	25	G	3	宮本 健一	KMTS-RT ミスター KK-S II	ミスター KK-S II	12	23'12.083	140.816	44.752	1'53.802	11
31	17			齊藤 慈岳	FER WILDLIFE KK-S2	KK-S2	12	23'12.207	140.803	44.876	1'53.379	6
32	86			鈴木 翔也	CF重衣☆ KK-S II		12	23'12.592	140.764	45.261	1'53.408	12
33	21	G	4	太田 浩	ミスター・セキグチ・制動屋	KK-S2	12	23'13.390	140.684	46.059	1'53.602	11
34	9	G	5	上吹越 哲也	FTK・レシング・カレッジ	KKS2	12	23'13.968	140.625	46.637	1'53.754	12
35	89	G	6	高橋 裕和	タイマン・テニス・制動屋・イワモトR	MIST KK-S II	12	23'39.502	138.096	1'12.171	1'55.285	11
36	15			小松 管	OKABE Rn-sports KKS2		12	23'45.916	137.475	1'18.585	1'51.959	6
37	16	G	7	大貫 直実	グレート・1ス・パンF109	F109	12	23'47.950	137.279	1'20.619	1'57.132	10
***** 以上完走 (規定周回数 10Laps) *****												
12				小川 涼介	M2 KK-S II	KK-S II	8	15'06.961	143.689	4Laps	1'52.197	8
20				島影 悠磨	M2 KK-S II		4	8'39.592	124.353	8Laps	1'54.228	3
37				笠上 隼斗	フルタイム・富士吟景 GIA ED	KKS	3	6'55.692	115.918	9Laps	1'55.915	2
33				入江 裕樹	スラッシュ☆タツレーシング	KKS2		DNS				

Fastest Lap

	1'51.244 (5 / 12)	147.665 km/h	34	清水 啓伸 / DragoCORSE
G	1'52.158 (9 / 12)	146.461 km/h	57	吉田 宜弘 / EXTREME☆ミスター☆GY

Start Time :10:15:17 Finish Time :10:37:44.331

Entry :41 Start :40 Finish :37

レース終了後に黒白旗通知(12:11 CarNo.5、走路外走行 複数回)
 レース終了後に黒白旗通知(11:25 CarNo.7、走路外走行 複数回)
 レース終了後に黒白旗通知(12:39 CarNo.14、走路外走行 複数回)
 レース終了後に黒白旗通知(12:33 CarNo.53、走路外走行 複数回)
 レース終了後に黒白旗通知(12:10 CarNo.55、走路外走行 複数回)
 レース終了後に黒白旗通知(12:08 CarNo.78、走路外走行 複数回)
 レース終了後に黒白旗通知(12:09 CarNo.86、走路外走行 複数回)

